ALINCO

PS1196
FNFI-EF

特定小電力ハンディトランシーバー
総務省技術基準適合品

DJ-PC27
簡易取扱説明書

左図の二次元コードを読み取ることで詳細取扱説明書をダウンロードすることができます。

【重要】
本書の注意書きは使用者が安全にご使用になるためのものです。管理者が遵守すべき内容は一部含まれていません。管理者は必ず弊社HPの詳細取扱説明書の注意書きもお読みください。

アルインコの製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機は免許、資格が不要の特定小電力無線機器です。日本国内なら誰でも用途を問わず、各種通信にお使いいただけます。本機の性能を十分に発揮させるために、この簡易取扱説明書を最後までお読みのうえ、保証書など付属書類とあわせて保管してください。また本機の機能の設定をされる管理者の方は弊社HPの詳細取扱説明書もあわせてお読みください。上の二次元コードからアクセスできます。

This product is intended for use only in Japan.

アルインコ株式会社 電子事業部

大阪本社 / 電子サービスセンター：
〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋 4-4-9 淀屋橋ダイビル 13F / TEL 06-7636-2222

無線・電源機器のアフターサービスに関する情報はアルインコ電子事業部HP https://alinco-denshi.com/「サポート情報」をご覧ください。

Copyright Alinco,Inc.

使用上のご注意 （必ずお読みください）

■ご使用環境・条件

- 本機を人命救助などの目的で使用して、万一、故障、誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元及び販売元はその責任を負うものではありません。
- 本機はIP54相当の防塵・防沫性能がありますが、ゴムキャップや電池フタをきちんと閉じていないとその性能を保証できません。また完全防水構造ではありませんので水没、流水での洗浄などは絶対におやめください。ぬれた後は乾いた布で手早く拭き取り、内部をよく乾燥させてください。防水に使われているゴムキャップなどは経年劣化が生じ、防水性が失われることがあります。弊社では防水性についても製品と同じ保証期間ですので、ご了承ください。
- 直射日光の当たる場所や空調機、火の近くなど、温度が高くなる場所には置かないでください。真冬でも閉め切った車内や窓際では、日光が当たると危険です。
- 雷が鳴りだしたら屋外での使用時は直ちに屋内、車内など安全な場所に避難し、充電器をご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。火災、感電、故障の原因となります。
- 運転中に本機を手に持って操作しないでください。運転中の携帯電話使用と同様に罰せられます。
- 付属品及び弊社指定のオプション品以外のものを接続して使用しないでください。故障の原因になります。
- 本機の定格温度は必ず守ってご使用ください。火災、発熱、故障の原因になります。充電器が正しく動作しません。
- ペットや小さいお子様の手が届かない場所で使用、保管してください。感電やけがの原因になります。
- 電化製品の近くで使うと電波障害を与えたり受けたりすることがあります。原因となる機器から離れてお使いください。

■電波法上のご注意

◎本機は電波法に基づいて技術適合証明(工事設計認証)を受けた製品で右記の「技適マーク」が印字されています。分解しないでください。改造して使うと罰せられます。

◎本機に貼付されたラベル類は重要です。次のことにご注意ください。
- 機種名、数字が書かれたラベル類は一切絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えたりしないでください。
- ラベル類が隠れるように他のシールやステッカーが貼り付けられていたら、修理の際に弊社サービスセンターで破棄させていただきます。ラベル類の印字が薄れてきたらお買い上げいただいた販売店又は弊社サービスセンターにご相談ください。
- ラベル類が意図的に手を加えてあると判断した場合、修理をお断りすることがございます。不法無線局開設の幇助に該当するためですのでご了承ください。

◎他人の通信を妨害したり、知りえた内容を通信者の許可なく第三者に伝えたり、自身で利用したり、メディアに公開したりすると罰せられます。

◎使用できるのは日本国内に限られています。

■トランシーバー本体の取扱いについて

- 本機は調整済みです。ユーザーが改造、仕様変更することは法律で禁止されています。
- 本機の秘話機能は第三者に通信内容が聞かれる可能性を低くするものであり、無線の性質上、通信の秘匿を保証するものではありません。
- 引火性ガスが発生する場所では使用しないでください。爆発、火災、感電、故障の原因となります。本機は防爆仕様ではありません。
- 発煙、異臭、異音、発熱などの異常が起きたらすぐに本機の電源を切り、バッテリーパックを取り外してください。充電器をご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。異常がおさまったことを確認した後、販売店や弊社サービスセンターにご連絡ください。
- 水などでぬれやすい場所で使用しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源を切って電池を取り出し、充電スタンドをご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。
- 大きい音で長時間使用しないでください。耳に聴覚障害を与える原因になります。
- 本機を落としたり、壁に当てたりしないでください。無理な力が加わり破損し発火、発熱、故障の原因になります。
- ズボンなどのポケットに入れたまま座らないでください。無理な力が加わり、けが、故障の原因になります。
- 内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。

■充電スタンドの取扱いについて

- 充電スタンドに水を入れたり、ぬらしたりしないでください。下記を守らないと火災、発熱、感電、故障の原因となります。
  - ○指定以外の電圧で使用しないでください。
  - ○定格外の温度範囲で使用しないでください。
  - ○充電スタンドの近くに可燃物を置かないでください。

■通信距離の目安（10mW送信時）

通信できる距離は周囲の状況によって大きく異なります。

- 河川敷など障害物のない平地 ：500m～1km程度
- 見晴らしのよい道、郊外の住宅地 ：500m程度
- 市街地のような障害物の多いところ ：200m程度

送信出力Lo（1mW)での通信距離は半分以下まで短くなる場合があります。

注意
- 建物内の縦階層間の通信はフロアが障害物になるため、直進では十数メートルの近距離であっても通信できないことがあります。このような場合は中継器を設置することで通話エリアを広げることができます。
- 人体を含む障害物やアンテナの向き、歩行などの移動の影響により、通信距離が半分程度まで短くなることがあります。
- トンネルのような閉鎖空間ではUHF電波伝播の特性により近距離でも通信できないことがあります。
- 空港、公共交通機関、医療・高齢者施設など無線機器が制限される場所では事前に施設管理者の許可を得てください。航空機内など使用禁止場所では指示に従ってください。

■電磁ノイズ

インバーター回路を内蔵している電子機器及びハイブリッドカー、電気自動車の車内や周辺では電磁ノイズを受けて、正常に動作しないことがあります。

◎インバーターを搭載する代表的な機器
- LED照明機器
- 電磁調理器
- 給湯器
- 自動車の電子機器
- 太陽光発電装置

■保守・点検

- 本体や充電器のケースは開けないでください。けが、感電、故障の原因となります。分解しないと交換できない部品は販売できません。内部の点検、修理はお買い上げの販売店又は弊社サービスセンターにご依頼ください。
- お手入れの際は安全のため必ず本体の電源を切って電池を取り外し、充電器をご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。
- 汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。パソコンやデジカメのようなAV機器を清掃するために市販されているクリーニング用具が最適です。
- ベンジン、シンナー、洗剤などの溶剤を使うと外装が変質したり、ショートを誘発して故障の原因となるため絶対に使わないでください。
- イヤホンマイクなどのケーブルは、軽く湿らせた布で拭いてください。汗はケーブルを劣化させる原因になります。

■バッテリー使用上のご注意

次の注意事項を守らないと、発火や発煙の原因となります。

- 季節、温度に関わらずバッテリーを車内や窓際など直射日光が当たる場所やヒーター類の近くなど高温となる場所には絶対に放置しないでください。
- 指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、直ちに充電を中止してください。
- バッテリーは消耗品です。充電回数は300回～ 500回が目安です。充電状況を定期的に確認してください。いつもより発熱している、膨れたなど異常があると思われたときは、すぐにバッテリーを交換してください。
- 劣化したバッテリーは使用しないでください。本機の性能を十分に活用するためにも、3年を目安、長くても5年以内に交換してください。
- 固い床に落としたり、壁にぶつけたりなどでバッテリーに強い衝撃を与えたときは新品に交換してください。電池内部に小さな傷ができると、それが発火や発煙の原因になります。

注意
- バッテリーは出荷時には十分に充電されておりません。お買い上げ後に満充電してからご使用ください。
- 充電は＋10℃～＋40℃の温度範囲内で行ってください。
- バッテリーの改造、分解、火中・水中への投入は絶対にしないでください。発熱・破裂などの可能性もあり大変危険です。
- バッテリーの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や、バッテリーの発熱による火傷の原因となることがあります。
- 必要以上の長時間の充電(過充電)はバッテリーの性能を低下させますのでおやめください。
- バッテリーの保存は、－10℃～＋45℃の温度範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの液漏れや、金属部分の錆の原因になりますので避けてください。
- バッテリーの長期保管には50%程度の充電状態が推奨されています。長期保管するときもときどき充電して、短時間でも本機を使用するのが無線機・バッテリー両方に最良の保管方法です。
- バッテリーは消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取り替えください。
- 使用済みのバッテリーは事業ごみとして業者に廃棄を依頼してください。

特定小電力の通信制限について

特定小電力トランシーバーの通信に関する制限事項について説明します。

3分制限(3分以上は連続で送信できません)

10秒前に警告音が鳴ります。通信時間が合計3分になると自動的に送信は停止します。チャンネルを独占させない機能です。

注意 3分の通信制限により自動的に通信が停止した後は、約2秒たたないと送信できません。

キャリアセンス(受信中は送信できません)

一定の強さ以上の信号を受信しているときは送信できません。受信中に送信しようとするとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。混信や妨害を与えないための機能です。

注意 セットモード「ビープ音量」をOFFに設定している場合、アラーム音は鳴りません。

付属品一覧

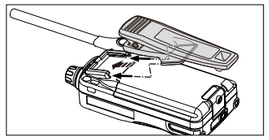
本製品には以下のものが付属しています。ご使用前に確認してください。

□ベルトクリップ □簡易取扱説明書(本書) □保証書

注意
- 保証書にご購入の日付が記載されていないときは領収書やレシートと一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効になりますのでご注意ください。
- 本機の保証は、本機と付属品にのみ適応されます。
- 弊社純正、又は弊社が認めたアクセサリー以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理となります。他の無線機メーカー製オプションが使えるかどうかは検証していません。他社製アクセサリーに関することは直接その製品のメーカーにお問い合わせください。

ベルトクリップの取付け/取外し

ベルトクリップを本機の背面にスライドさせてはめ込みます。取付け後は本機を体の横や腰などに固定してください。また有線式オプションのケーブルは引っかからないように余分な長さを束ねてください。
また、取り外すときはロックレバーを押さえながら下方向へスライドします。



注意 ●ベルトクリップは消耗品です。スペア部品を販売しておりますので、販売店にご相談ください。

電池の入れ方

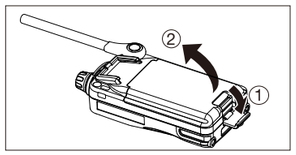
①ロックを外す

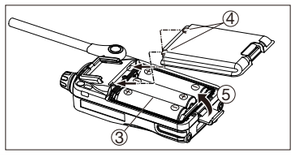
②カバーを開ける

③電池を入れる
＋/ーの表示に従って、単三形乾電池3本をセットします。

④カバーを閉める
ツメを合わせてカバーを閉めます。

⑤ロックをかける
きちんと閉まっていることを確認してください。





注意
- 種類が異なる電池や、新品と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- しばらく使用しないときは電池を取り外してください。液漏れすると修理できなくなります。
- 市販の単三形充電池は本機で充電できない、使用時間が短い、減電池表示が不正確などの動作保証の対象外です。
- 電池カバーやツマミは補修部品としてお求めいただけます。販売店へご相談ください。

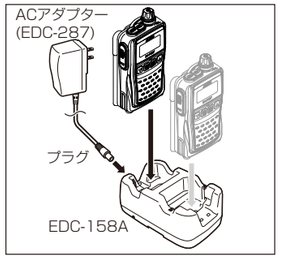
バッテリーパックと充電スタンド

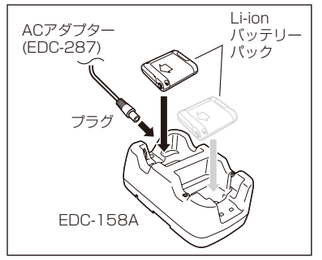
●Li-ionバッテリー	EBP-70（3.7V ／ 1000mAh）
●ツイン充電器セット	EDC-158A
●ツイン連結スタンド	EDC-158R（最大4個まで連結、8台の充電）
●連結充電用AC アダプター	EDC-162
●シングル充電器セット	EDC-184A

注意 充電池は出荷時には十分に充電されていません。お買い上げ後に満充電してからご使用ください。弊社の充電器は対応する弊社製品専用です。市販の充電池を充電することはできません。
充電中は本機の電源を切ってください。

Li-ionバッテリー EBP-70 の充電（充電器：EDC-158A/EDC-184A）

①Li-ionバッテリーEBP-70を極性に注意して本機に装着します。
②ACアダプターのプラグを充電スタンドのジャックに接続します。
③ACアダプターを家庭用コンセントAC100Vに接続します。
④電源を切った本機を充電スタンドの、前後いずれかのポケットに挿入します。EDC-158Aは2台同時に充電することもできます。
⑤充電が開始され赤ランプが点灯します。
⑥完了するとEDC-158は赤ランプが消灯、EDC-184Aは緑ランプが点灯します。
※バッテリー単品で充電することもできます。空のバッテリーを約2.5時間で満充電にします。バッテリーの極性に注意して充電スタンドに装着してください。



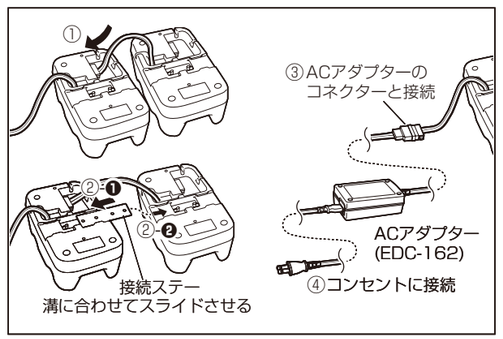


注意
- バッテリーが満充電に近いと充電開始を知らせるランプが点灯しないことがあります。このようなときは、しばらく本機を使って減電池表示が出たら充電してください。これは過充電を防止する回路が働いているためで、故障や異常ではありません。
- 充電器の前方のポケットではランプが点灯するが後方のポケットでは点灯しない、あるいはその逆の動作をする場合も、しばらく本機を使って電池を使い切ってから充電してください。充電開始を検知する回路の個体差により、このような動作をすることがありますが、異常ではありません。
- Li-Ionバッテリーは正しく取り扱わないと、破裂、火災、やけどの原因となります。
  「バッテリー使用上のご注意」をよくお読みください。正しく使っても劣化しますので3年を目安、長くても5年以内に新品に交換してください。長く使うほど事故のリスクが高くなります。
- Li-ionバッテリーは定格電圧（50%充電程度）での保存が推奨されています。特に電池が減ったまま保存すると数ケ月で充電ができなくなることがありますので、定期的に通電して補充電するメンテナンスをおこなってください。充電器に本機を挿入してもうまく充電しないときは、充電端子の汚れを乾いた布で拭き取ってください。それでも充電できないときはサービスセンターにご相談ください。

連結スタンド EDC-158Rによる充電

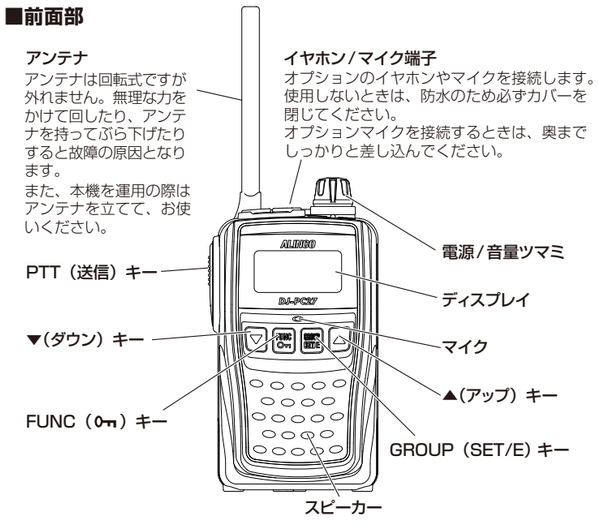
EDC-158Rを使用して連結充電する場合、必ず大容量の連結充電用ACアダプター EDC-162が必要です。台数に関係なく、空のバッテリーを約2.5時間で充電します。

①スタンドのコネクターどうしを接続します。スタンドは最多4台まで連結できます。
②付属の接続ステーをスタンド底面の溝に合わせてスライドさせます。確実にスタンドどうしが固定されたことを確認してください。
③ACアダプターのコネクターを、端のスタンドのコネクターに接続します。
④ACアダプターを家庭用コンセントAC100Vに接続します。
⑤電源を切った本機、又はバッテリー単品を充電スタンドのポケットに挿入します。充電が開始され赤ランプが点灯します。
最多8台まで同時に充電することができます。
⑥充電が完了すると赤ランプが消灯します。

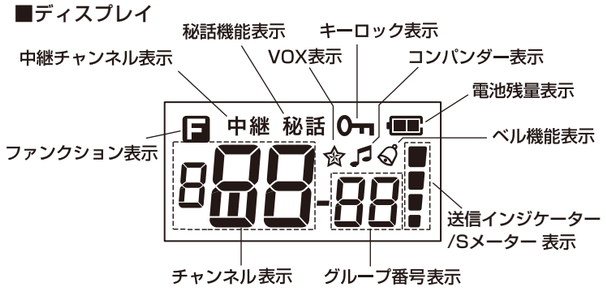


各部の名前とはたらき

■前面部



■ディスプレイ



基本操作

ここでは基本的な操作を簡単に記載しています。本書に記載していないセットモードや注意点などは詳細取扱説明書を参照ください。

■キー操作
「キーを押す」とはしっかり押した後、すぐに離すことを指します。
「キーを長押し」とは約2秒間押し続けることを指します。

■電源を入れる
電源/音量ツマミを時計方向に回すと電源が入り、待受表示になります。
電源を切る場合は反時計方向に回します。

■音量を調整する
電源/音量ツマミを時計方向に回すと音量が大きくなります。

注意 電源を入れたときの「Er-nG」表示はイヤホン断線検知の異常をお知らせしています。プラグを正しく挿入しているか確認し、直らないときは新品に交換してください。

交互通話

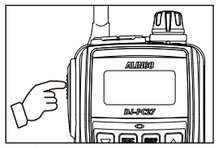
電波の届くところにいれば人数に制限なく通話できます。一人が話す音声を残り全員が受信します。複数の人が同時に送信することはできません。

■チャンネルを合わせる
[▲]又は[▼]キーを押して交互通話用チャンネルのL01～09、b01～11を選択します。
通話したいトランシーバー全てを同じチャンネルに合わせます。
キーを押し続けると連続してチャンネルが切り替わります。

■受信する
信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。
ディスプレイのSメーターが信号の強さに応じて点灯します。

メモ
- ●本機はテールノイズキャンセラー機能を搭載しており、受信終了時の「ザッ」というノイズが低減されています。
- ●本機は受信待ち受け状態で約5秒間キー操作がないとバッテリーセーブ機能が動作します。本機能動作時に信号を受信すると通話の始めが途切れる場合がありますが、異常ではありません。

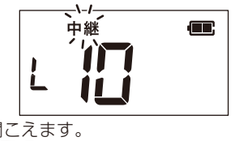
■送信する
信号を受信していないことを確認してから、[PTT]キーを押します。
ディスプレイの送信インジケーターが点灯し送信が始まります。
[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。マイクと口元は約5cm離してください。
一定の強さ以上の信号を受信しているときは警告音「プップ」が鳴り送信できません。[PTT]キーを離すと受信待受状態に戻ります。



中継通話

直接では電波の届かない相手と別売の中継器を介して交互に通話できます。電波の届くところにいれば人数に制限なく通話できます。

■チャンネルを合わせる
[▲]又は[▼]キーを押して中継通話用チャンネルのL10～18、b12～29を選択します。
ディスプレイに「中継」が点灯します。



■受信する
信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。
ディスプレイのSメーターが信号の強さに応じて点灯します。

■送信する
信号を受信していないことを確認してから[PTT]キーを押します。
ディスプレイの送信インジケーターが点灯し、送信が始まります。
[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。

メモ 技術の違いで起きる相性で、他社製の中継器を介しての通信はできないことがありますが、本機も中継器も異常ではありません。
中継器にグループトーク機能が設定されている場合は、本機にも同じグループ番号を設定してください。

注意
- ●中継通話用チャンネルでは、子機同士の直接通話はできません。
- ●それぞれの機器が至近距離にあると誤動作することがあります。子機 - 中継器間、子機 - 子機間は10m以上離してください。

コールトーン機能

通話グループ全員に注意喚起ができます。送信中に[▲]又は[▼]キーを押している間、コールトーン(ビープ音)が鳴ります。相手を呼び出すことができます。[▲]と[▼]キーでは音色が異なります。

注意 セットモード「ビープ音量」をOFFにしているとき、呼び出し音は鳴りません。

グループトーク機能

グループトーク機能を設定するとグループ番号が一致した場合にのみ受信音が聞こえます。他のユーザーと混信しやすい場所で設定すると便利です。

■[GROUP]キーを押す
チャンネル表示の右側にグループ番号が点灯します。

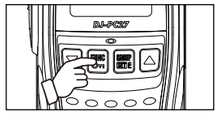
■グループ番号を合わせる
[FUNC]キーを押しながら[▲]又は[▼]キーを押して自分のグループのトランシーバーを全て同じ番号に合わせます。
グループ番号は01～50を選択できます。一般的に01番がよく使用されます。混信を避けるため01番以外に設定することをおすすめします。

■送信する
[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。
チャンネルとグループ番号が一致している人とのみ通話ができます。ただしグループトーク機能を設定していない人にはこちらの声が聞こえます。

キーロック機能

キーロックをしておくと誤動作を防止できます。ロック中でも電源オンオフと音量調整はできます。

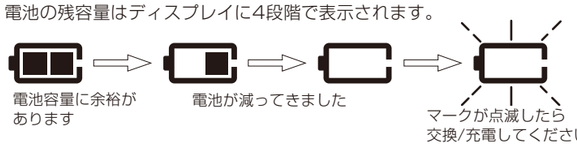
■簡易キーロック
[FUNC]キーを長押しします。「Loc1」が点滅した後、「🔑」が点灯します。解除するには同じキー操作を行います。



■通常キーロック
[FUNC]キーと[GROUP]キーを同時に長押しします。「Loc2」が点滅した後、「🔑」が点灯します。解除するには同じキー操作を行います。

減電池表示

電池の残容量はディスプレイに4段階で表示されます。



メモ
- ●「電源が入らない」「ON/OFFを繰り返す」「ディスプレイ表示が消える」「ハウリング」などの症状が出た場合も電池の消耗が考えられます。新しい電池と交換するか、充電池を充電してください。しばらくご使用にならないときは、必ず電池を取り外してください。液漏れの故障は修理できません。
- ●セットモード「電池選択(bt)」で使用する単三形乾電池(AL)かバッテリー(Li)を正しく選択しないと減電池表示が不正確になります。

セットモード項目

各種機能を用途や好みに合わせてカスタマイズすることができます。セットモードの詳しい説明は詳細取扱説明書をご覧ください。

■セットモードの操作
①[FUNC]キーを押しながら[SET]キーを押します。セットモードに入り、項目が表示されます。
②[SET]キーを押すごとに項目が切り替わります。[FUNC]キーを押すと前項目に戻ります。
③[▲]又は[▼]キーを押して設定値を変更します。
④[PTT]キーを押して設定を完了します。

注意 [FUNC]キーを押し始めたら、すぐに[SET]キーを短く押してください。[FUNC]キーだけを押しすぎるとキーロックします。[FUNC]キーだけを長押しして、解除してからやり直してください。

No.	項目	機能説明	選択項目	初期値
1	bt	電池選択(アルカリ/Li-ion)	AL/Li	AL
2	CP	コンパンダー(雑音低減)	oF/on	oF
3	vo	VOX(音声検出送信)	oF/Lo/Hi	oF
4	SC	秘話	oF/on	oF
5	bP	ビープ音量(キー操作音、各種アラーム音)	oF/Lo/Hi	Lo
6	SP	スタートビー(送信開始音)	oF/on	oF
7	EP	エンドビー(送信終了音)	oF/on/PP	oF
8	bL	ベル(呼び出しお知らせ)	oF/on	oF
9	LP	ランプ	oF/5/on	5(秒)
10	PH	PTTホールド(送信保持)	oF/on	oF
11	Pt	PTTオン/オフ(送信禁止)	oF/on	on
12	At	中継自動接続手順	oF/1/2	(on)2
13	Er	イヤホン断線検知	oF/on	on
14	Cb	コールバック	oF/on	oF
15	Po	送信出力(Lo:1mW/Hi:10mW)	Lo/Hi	Hi
16	EmG	緊急通報	oF/on	oF
17	rmt	接客モード	oF/Hd/tH/vo	oF
18	ivL	本体音量レベル変更	Lo/Hi	Hi

リセット

設定が分からなくなったときは初期化します。

[FUNC]キーを押しながら電源を入れます。ディスプレイが全点灯中に[FUNC]キーを離すと、「L01」が表示され工場出荷状態に戻ります。

その他の機能

■ACSH(アクシュ)モード
すでに使用しているトランシーバー（交互通話は他社製も含む）のチャンネルとグループ番号をスキャンして、本機に同じ内容を自動設定する機能です。
交互通話・中継通話に対応しています。交互通話の場合は、あらかじめ通話モードを設定したマスター機と本機、中継通話の場合は、あらかじめ中継通話に設定したマスター機と中継器と本機が必要です。
他社のトランシーバーと混用するときも、それをマスター機にしてACSHすると、チャンネル表示方法の違いで起きる誤設定が避けられます。

-設定方法-
①マスター機と任意の本機を用意します。誤判定を防ぐために近距離で作業してください。複数台同時に設定が可能です。
②本機の電源を切ります。
③ディスプレイに「ACSH」と表示されるまで[GROUP]キーを押し続けながら電源を入れます。
④表示後、マスター機を送信し続けます。
⑤数秒から最長で2分程度待ちます。マスター機の電波を受信すると「ピピ」音とともにディスプレイに「Ac-rn」と表示されます。
⑥設定が終わると「プルル」音とともに、ディスプレイに「oo oo」が表示後、自動的に再起動します。全ての子機のACSHが終わったらマスター機の送信を停止して、通話できるかお互いに確認します。

注意
- ●自動設定中は電源を切らないでください。自動設定できなくなります。途中で電源が落ちた時は始めからやり直してください。
- ●本機が電波を検出しているときは、マスター機のマイクから音声が入らないようご注意ください。電波が乱されて正常に判定できないことがあります。
- ●自動設定を行うときは、マスター機のグループ番号は01～38にすることをおすすめします。他の番号に設定すると誤判定により違うグループ番号に設定されることがあります。
- ●自動設定後はキーロック状態になります。手動でチャンネルやグループ番号を変更するときは[FUNC]キーを長押しして解除します。

以下の拡張機能の操作は表紙の二次元コードから詳細取扱説明書をご覧ください。

■エアクローン
設定が済んだ本機の状態を、無線で他のDJ-PC27に一度にクローンできます。ACSHと異なり、セットモード設定まで含めてクローンします。

■デュアルオペレーションモード
メイン/サブに設定した2つのチャンネルを交互に受信して、そのどちらも通話できるモードです。

■リモコンモード
本機をリモコンとして弊社製中継器を遠隔設定できる機能です。

故障とお考えになる前に

症状	原因	処置
電源が入らない	電池の入れ方が間違っている	電池を正しく取り付けてください
	電池が消耗している	新しい電池に交換するか充電池を充電してください
音が出ない	音量が低すぎる	適切な音量に調整してください
受信できない	相手と設定が違う	CH/グループ番号を合わせてください
	相手と距離が離れ過ぎている	相手に近づいて通話してください
送信できない	信号を受信している	信号がなくなってから送信してください
	3分通信制限を超過している	[PTT]キーを離して2秒経過後に送信してください
キー操作できない	キーロックされている	キーロックを解除してください
充電できない	端子が汚れている	端子の汚れをふき取ってください
	充電池が劣化している	新しい充電池に交換してください
電源を入れると「Er-nG」表示が出る又はイヤホンから音が出ない	イヤホンがしっかり入っていない	奥までねじ込んでください。
	イヤホンが断線している	イヤホンを新品に交換してください。

生産終了品に対する保守年限

生産終了後も5年間は補修用部品を在庫しています。不測の事態で欠品した場合には保守できなくなることがありますのでご了承ください。

オプション一覧

EBP-70	Li-ionバッテリーパック(1000mAh)	■EME-29A	イヤホンマイク(耳かけ型)
EDC-158A	ツイン充電器セット	■EME-57A	イヤホンマイク(カナル型耳かけ)
EDC-158R	充電器スタンド	■EME-39A	咽喉イヤホンマイク
EDC-184A	シングル充電器セット	■EME-46A	ヘッドセット
EDC-162	連結充電用ACアダプター	■EME-53A(※1)	ヘルメット用ヘッドセット
EDC-139	ACアダプター	EME-522A	イヤホンマイク(オープンエア型)
ESC-61	ソフトケース	EME-652CA	イヤホンマイク(カナル型)
EME-6	ストレートコードイヤホン(オープンエア型)	EME-652MA	イヤホンマイク(耳かけ型)
EME-26	カールコードイヤホン(オープンエア型)	EME-762MA	イヤホンマイク(オープンエア型)
EME-50	ストレートコードイヤホン(耳かけ型)	EME-762PA	イヤホンマイク(オープンエア型)
■EME-21A	イヤホンマイク(カナル型 グレー)	EMS-59(※2)	スピーカーマイク
■EME-21AB	イヤホンマイク(カナル型 ブラック)		

(※1) バイク用ヘルメットには使用できません。
(※2) スピーカーマイクは、PTTホールド、VOX機能、コールバック機能をご使用になりません。
■ 壊れにくく、修理ができる業務用です。

定格

送受信周波数	レジャーチャンネル(Lチャンネル)	422.2000～422.3000MHz(交互)
		421.8125～421.9125MHz(中継受信)
		440.2625～440.3625MHz(中継送信)
	ビジネスチャンネル(bチャンネル)	422.0500～422.1750MHz(交互)
		421.5750～421.7875MHz(中継受信)
		440.0250～440.2375MHz(中継送信)
周波数制御チャンネル	421.8000MHz(受信)、422.1875MHz、440.2500MHz(送信)	
電波形式	F3E(FM)/F1D(FSK)	
送信出力	10mW/1mW	
受信感度	−14dBu(12dB SINAD)	
音声出力	800mW以上(内部スピーカー、外部出力：8Ω)	
通信方式	単信、半複信	
定格電圧	DC3.7V(Li-ionバッテリー使用時)/4.5V(単三形乾電池使用時)	
消費電流	送信時：約 75mA、待受時：約 80mA バッテリセーブ時：約 20mA	
動作温度範囲	−10℃～+50℃(ただし、充電は0℃～+40℃)	
寸法	54.8(W)×94(H)×29.2(D)mm (突起物除く)	
質量	約100g(本体のみ)	
使用時間の目安	単三形アルカリ乾電池使用時　：約60時間 Li-ionバッテリー使用時　：約26時間	

仕様、定格は予告なく変更することがあります。本書の説明用イラストは実物と実態や形状が異なったり、一部の商品を表示している場合があります。本書の内容を無断転載することは禁止されています。乱丁、落丁はお取り替えいたします。

株式会社エクセリ(代理店届出番号C1909977)　東京都墨田区菊川3-17-2アドン菊川ビル4F / 北海道旭川市6条通8-36-25 セントラル旭川7F-G号室 / 大阪府大阪市中央区久太郎町1-9-5本町EASTビル7F URL：https：//www.exseli.com/